

石 仏 すとーん・さーくる

No.105

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2019年5月25日 発行
 事務局 T945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
 ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>



九番 秩迦牟尼如来

麓から山頂まで二百体もの石仏は玉の木・市振・上路や教導尼生地の越中境村の信仰の篤い人たちからの寄進によって年月をかけて一体ずつ建てられたといいます。

また教導尼は、托鉢によって得た淨財を身寄りのない子供の養育や災害にあつた人へ

明治三十年（一八九七）頃から四国八十八ヶ所をはじめ西国・坂東・秩父の観音靈場などを裸足で巡礼し、靈場の土を持ち帰つてそれを敷いた上に各所ゆかりの石仏を安置し、誰でもがこの地で靈場巡りを行うことができるようになります。

麓から山頂まで二百体もの

石仏は玉の木・市振・上路や教導尼生地の越中境村の信仰の篤い人たちからの寄進によつて年月をかけて一体ずつ建てられたといいます。

また教導尼は、托鉢によつて得た淨財を身寄りのない子供の養育や災害にあつた人へ

石 仏 散 歩

越後最西端の靈場

玉の木の八十八ヶ所

上越市 やまだ漫歩

旧西頃城郡青海町市振（現糸魚川市市振）玉の木は古代神濟（かんのわたり）と称された境川を隔てて富山県に接する新潟県西端の集落です。

玉の木の通称觀音山に八十八ヶ所觀音靈場を開いたのは普門庵の庵主上野教導という方です。教導尼は安政元年（一八五四）越中國新川郡境村（現富山县下新川郡朝日町）に生まれ、十八才の時に市振の長円寺の養女となり、廢寺となつていた普門庵を再興しました。

明治三十年（一八九七）頃から四国八十八ヶ所をはじめ西国・坂東・秩父の観音靈場などを裸足で巡礼し、靈場の土を持ち帰つてそれを敷いた上に各所ゆかりの石仏を安置し、誰でもがこの地で靈場巡りを行うようになります。

麓から山頂まで二百体もの

石仏は玉の木・市振・上路や教導尼生地の越中境村の信仰の篤い人たちからの寄進によつて年月をかけて一体ずつ建てられたといいます。

また教導尼は、托鉢によつて得た淨財を身寄りのない子供の養育や災害にあつた人へ

の援助、赤十字社への寄付など慈善事業に向け、昭和七年（一九三二）六月十九日七十八歳で觀音菩薩のごとき生涯を閉じました。

今も玉ノ木地区では毎年六月、命日に教導尼の徳を偲んで觀音祭りを行い、巡拝路周辺の整備を行っています。

越後ときめき鉄道日本海ひすいライン市振駅下車徒歩十分、国道八号線道の駅「市振の関」に程近い普門庵が登り口で、順番と尊名を記した木の札を目に印に、二時間程で八十八ヶ所巡りができます。途中眺めの良い休憩場所もあり、山頂からは眼下に市振漁港と集落や、山塊が海に落ち込む先に親不知の嶮を望むことができます。

帰りは別の道を下りると山の裏側の林道へ出てしまうので元の道を戻りましょう。

平成二十年（二〇〇八）秋の上越地区石仏見

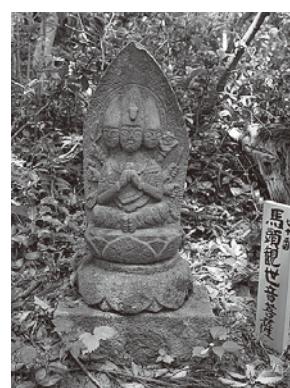
学会では始めの数番までしかご案内できません

でしたが、これから季節、

青葉繁る靈場巡りで清々しい一日を過ごしてはいかがでしょうか。



山頂からの眺望



七十番 馬頭觀音

北国街道 犀浜七里（米山三里）に行く

上越地区見学会に参加して

上越市 佐野貞三

四月二十九日（昭和の日）、朝起きて外の天気を確認した。雨は降っていない。一安心。

集合場所の犀潟駅では中越地区、下越新潟地区からの参加者を合わせて四十七名が受付を済ませた。いただいた「見学会のしおり」を見ると、上越市生まれの私には馴染みの地名もたくさんあつたが、初めて訪れる所も多く期待に胸が弾んだ。

◆**犀潟** 出発式の後、マイクロバス二台に分乗してスタートした。最初の見学地真



円蔵寺で木喰仏の背中も拝観

言宗円蔵寺は弘法大師空海の開基と伝える古刹で、木喰五行上人作の毘沙門天像と不動明王像を見学。八十八才にして渾身の作。

◆**柿崎** 移動中も車内で実行委員の水島・青山氏から北国街道沿道の歴史や文化について説明を受けながら先へ進み、出羽の地蔵堂では大水で流ってきた全身傷だらけの地蔵菩薩や月待塔、庚申塔、巡拝塔、納経塔などを、浄土宗善導寺では木食但唱上人作の阿弥陀如来像を渡邊事務局長の解説で拝観、更に開祖法然上人の報恩講で檀家の皆さんのがお集りの中ご住職から本堂内をご案内いただき午前中の見学を終わった。

昼食は上下浜のマリンホテルハマナスで日本海を眺めながら会員同士和氣あいあいと話に花をさかせながらいた。

◆**大清水** 午後の見学は越後三十三所観音三番札所の大清水大泉寺からスタート。観音堂は国指定重要文化財、本尊は千手觀音で泰澄の作と伝えられ秘仏となっている。境内からは日本海、頸城平野、妙高連山が一望できる。こちらでも木喰五行作の子育て地蔵を拝観した。

◆**鉢崎** いよいよ米山三里といわれる難所である。鉢崎宿では関所跡や芭蕉が泊まつた宿跡を見学。権太を探検した松田伝十郎の記念碑の建つ聖が鼻からは佐渡を望む雄大な景色を眺めた。ここから先の街道は中越沖地震で崩落し未だに復旧していない。

◆**笠島** 街道は再び海岸に向かって降る。



大泉寺にて満開の桜をバックに記念撮影

◆**上輪** 払川橋の袂には漁師が信仰した金比羅大權現塔を始め多くの石塔があり、様々な民間信仰を知った。集落から米山三里の中でも最も難所と言われた亀割坂を登る。かつては二軒の茶屋があり弁慶の力餅を名物としていたという。坂を登り切ったところに明治天皇の休憩所となつた六宣閣という料亭があり料理に供した鯛を供養する鯛塚がある。

途中海沿いの牛ヶ首に東洋一の規模の層内褶曲が見られる。真言宗多聞寺は境内に石工が奉納した石階供養塔や三日月塔など多くの石仏石塔があり興味がつきない。又この寺では正月に「蘇民将来符」とよばれる厄除けのお札を檀家に配り、門口や鴨居に祀ることでその実物を見ながら説明を聞いた。集落から街道を登り国道に出る。



多聞寺の石仏群

◆青海川 米山大橋の西詰の酒屋さんの前に牛頭天王塔が建っている。笠島で学んだ蘇民将来説話のスサノオのことだと知る。折しも新元号「令和」を記念する限定酒があると聞き、見学もそこそこにお土産買ひを楽しむ一幕も見られた。



郡境の道標を兼ねた法師塔

集落は大橋の下にあるが降りずに橋を渡り通称風の丘の中程に米山三里の標識と道標を兼ねた法師塔が建っている。この場所で佐渡産御金荷の受け渡しが行われた。明治頃には旧頸城郡と刈羽郡の郡境であった。ここではワラビ採りに夢中になる人が続出。これも見学会の楽しみの一つだろう。

再び国道に戻り大橋東詰めから集落へ下りる旧道へ入ると海を背に出羽三山塔が建っている。是で本日の見学は無事終了。青海川駅近くの、さけのふるさと公園で解散式を行った。

一日廻つてたくさんの知らないことを知り、驚かされるばかりであった。これだけの見学会の下準備と各所の説明があればこそ有意義な一日であった。実行委員の方々のお蔭で楽しい一日を過ごさせていただきありがとうございました。柏崎で行われる中越地区見学会も楽しみにしています。

北国街道シリーズ上越編を終えて 上越地区見学会実行委員会

平成二十八年から四回にわたり実施した北国街道シリーズは信越国境の関川関所（妙高市）から高田城下（上越市）を経て頸城郡・刈羽郡境の青海川（柏崎市）まで延べ一三〇余名の参加を得て無事終了いたしました。ご参加いただいた会員の皆様、ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

これまで上越地区では二十五年間三十回の見学会で旧頸城地方のほぼ全域を回りましたが、今後は創立の原点に立ち返り、より充実した見学会を目指す所存です。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

◆資料訂正について

上越地区石仏見学会のしおり北国街道(IV)

七六 犀潟円蔵寺の項に誤りがありました。

訂正してお詫び申し上げます。

権大僧都法印果盛位【住職墓塔】

誤 種子「サ」聖観音菩薩

正 種子「ア」胎藏界大日如來

誤 籠島甚王郎と高橋健重郎の共作

正 施主 笠島甚三郎、石工 高橋健重郎

尚石工高橋健重郎については稿を改めます。



事務局だより



◇中越地区見学会のお知らせ

(②)8時 長岡駅東口（ホテルニューオオタニ前道路側）

見学地 妙義神社、榛名神社、旧倉渕村の石神仏、水澤観音など

期日 7月6日(土) 9時～15時30分
テーマ 北国街道の石仏と名所を歩く
一難所・米山三里・柏崎宿―

集合 9時 柏崎市文化会館アルフォーレ
駐車場 (赤レンガ風トイレ前)

見学地 胞姫神社周辺、六割坂、番神堂、
ねまり・立地蔵、閻魔堂ほか
昼食 レストランキーウエスト「磯の香
御膳」

解散 15時30分

参加費 3500円(昼食代・資料代等含む)

定員 25名

申込み 伊比卓郎まで(電話かEメールで)
電話 090-7275-8869

Eメール tnibi@poppy.ocn.ne.jp
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

◇有志一泊見学会のご案内

日時 9月16・17日(月・火)

テーマ 上州の山岳靈場と道祖神の里を歩く
く・妙義・榛名神社と旧倉渕村―

集合 ①7時 柏崎市文化会館アルフォーレ
駐車場 (赤レンガ風トイレ前)

りから、氏の研究者としてのライフルヒストリーを伺つたような深い印象が残りました。

第二部(午後2時40分)の総会(会員33名参加)では、①平成30年事業報告・会計報告、②役員の変更について(中越事務局が山崎利雄氏から伊比卓郎氏へ、会計監査が大野鉄男氏から加藤賢治氏へ)③新年度事業計画・予算案が事務局より示され、いずれも全会一致で承認されました。なお詳細は同封資料を参照下さい。

◇令和元年度総会を開催しました

5月12日(日)、長岡市立中央図書館講堂において今年度総会が開催されました。

以下、概要を報告します。

第一部(午後1時)は新潟県民俗学会理事・日本考古学協会員の池田亨氏(当

会会員)による「石造文化の民俗信仰―魚沼地方の発掘調査を中心にして」と題する公開講演会で、39名(一般6名含む)の聴講でした。氏の半世紀に及ぶ魚沼地方での発掘・民俗調査をベースに、縄文時代から現代まで続く「石と日本人とのかかわり」を自ら確認した遺物や遺構、石造物等を取り上げての興味深い講演でした。時に調査時のエピソードを織り交ぜた真摯な語



講師の池田亨氏

◇新年度会費納入のお願い

本年(令和元)度の会費納入の振込用紙を同封しました。早目にお振込願います。

編集後記

改元とはいえ、いつもながら石仏と仲間との出会いを重ねていきたいと思います。ぜひ上記見学会でお会いできるのを楽しみしております。